

平成 27 年度（2015 年度）

京都市立芸術大学 音楽学部

# 入 学 試 験 問 題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

# 目 次

## 第一次試験

作曲専攻	1
指揮専攻	6
ピアノ専攻	8
弦楽専攻	9
管・打楽専攻	13
声楽専攻	15
音楽学専攻	16

## 第二次試験

音楽通論	17
聴音書取（旋律聴音）	22
聴音書取（和声聴音）	23
新曲視唱	24
コールユーブンゲン視唱（声楽専攻のみ）	25
ピアノ新曲視奏（ピアノ専攻のみ）	26
副科ピアノ演奏（ピアノ専攻以外）	28

第一次試験

作曲専攻

(第1日) 和声法：A ソプラノ課題：与えられたソプラノに和声をつけ，4声体とすること。

B バス課題：与えられたバスに和声をつけ，4声体とすること。

(A, Bとも記譜はト音記号とヘ音記号の大譜表による。) 試験時間各2時間30分

作品提出：自作品を1曲以上，試験当日に提出すること。(コピー譜を提出すること。提出された作品は返却しない。)

(第2日) 二声対位法：与えられた全音符の定旋律に，対旋律をつくる。試験時間3時間

対旋律は，2分音符，4分音符，8分音符と移勢(シンコペーション)を含む，いわゆる自由(華麗)対旋律によるものとする。

解答は，次の1～6の6通りが必要である。

1：定旋律をバスに置き，対旋律をソプラノに作る。

2：定旋律をバスに置き，対旋律をアルトに作る。

3：定旋律をバスに置き，対旋律をテノールに作る。

4：定旋律をソプラノに置き，対旋律をアルトに作る。

5：定旋律をソプラノに置き，対旋律をテノールに作る。

6：定旋律をソプラノに置き，対旋律をバスに作る。

なお，定旋律は，ソプラノとバスにおいて，適宜に移調してもよい。

(記譜はa又はbのいずれかを選択する。a:ソプラノ，アルト，テノール，バス記号による。

ト音記号は用いない。b:ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

実施例(aによる記譜)は別記のとおり。)

(第3日) 作曲：与えられた素材により器楽曲を作曲すること。試験時間4時間30分

(第4日) 面接を行う。

◎作曲専攻(第2日)二声対位法の実施例は下記のとおりである。

定旋律

実施例

1

2

3

4

5

6

平成27年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法

- 次のソプラノの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。  
記譜は、ト音記号とヘ音記号の大譜表による。 (試験時間 2時間30分)

*Allegretto cantabile*

Handwritten musical score for a soprano melody. The score is written on three staves. The first staff is in 3/4 time, key of B-flat major, with a tempo marking of *Allegretto cantabile* and dynamics of *mp* and *mf*. The second staff continues the melody with *mf* dynamics. The third staff concludes the melody with a *rit.* (ritardando) marking and *mf* dynamics. The notes are written in treble clef with various accidentals and slurs.

平成27年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法

■ 次のバスの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。

記譜は、ト音記号とへ音記号の大譜表による。（試験時間 2時間30分）

*Allergo moderato*

mf

mf

mp

mp

mp

cresc. --

rit.

f sempre

平成27年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第二日：対位法

- 次の全音符の定旋律に、対旋律を1つ作り、二声体としなさい。  
 対旋律は、二分音符、四分音符、八分音符と移勢（シンコペーション）を含む、いわゆる自由（華麗）対旋律によるものとする。

解答は、次の1－6の6通りが必要である。

- 1：定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。
- 2：定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。
- 3：定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。
- 4：定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。
- 5：定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。
- 6：定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

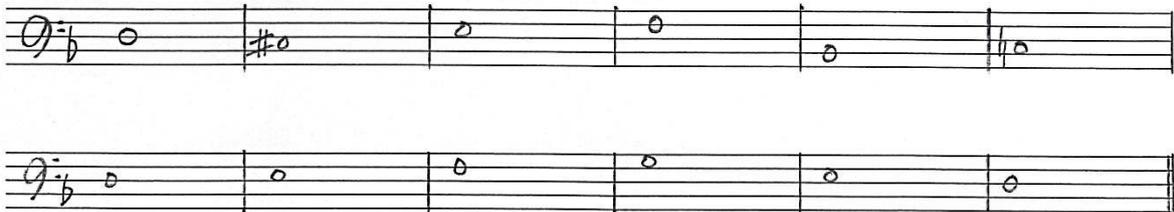
なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜に移調してもよい。

記譜は、a. またはb. のいずれかを選択すること。

a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。

b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 3時間)

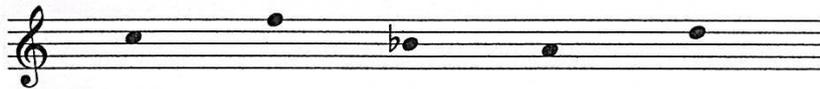


平成 27 年度  
京都市立芸術大学音楽学部入学試験  
作曲専攻・第三日：作曲

◆次の素材により、器楽曲を作曲しなさい。

ただし、調性・拍子・速度・リズムは任意に設定すること。

(試験時間 4 時間 30 分)



## 第一次試験

### 指揮専攻

- (第1日)
- 1 下記の楽曲を指揮すること。全楽章の中から当日、演奏部分を指定する。(演奏はピアノによるものとする。)
    - (ア) L. v. Beethoven : 交響曲 第1番 ハ長調 作品21
    - (イ) F. Schubert : 交響曲 第8(7)番 ロ短調 D. 759「未完成」  
いずれも全楽章。楽譜の出版社は自由とする。
  - 2 当日提示する楽曲による総譜視奏(スコアリーディング)
    - (ア) L. v. Beethoven : 交響曲 第1番 ハ長調 作品21の第2楽章の総譜(スコア)を見てピアノで演奏すること。
    - (イ) 初見視奏(ソプラノ記号, アルト記号, テノール記号を含む場合がある。)
  - 3 既に習得しているピアノ以外の楽器(弦楽器, 管打楽器, ハープのうちいずれか1つ)若しくは声楽を演奏すること。その場合, 楽器は各自持参すること。ただし, コントラバスについては, 楽器を持参できない場合は, 本学で用意するので, 楽器を持参するか否かを願書に記入すること。マリンバについては, 本学で用意する楽器を使用すること。なお, すべて無伴奏とし, 演奏曲目を願書に明記すること。
  - 4 和声法: 与えられたソプラノとバスの旋律に和声をつけ, 4声体とすること。  
(記譜はト音記号とヘ音記号の大譜表による。) 試験時間3時間
- (第2日) 面接を行う。

平成27年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

指揮専攻・和声法

- 次のバス、およびソプラノの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。  
記譜は、ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 3時間)



## 第一次試験

### ピアノ専攻

下記の楽曲を演奏すること。

(第1日) 1 ロマン派以降の作品から、練習曲以外の任意に選んだ作品。

(第2日) 2 F. Chopin : 練習曲作品 10 及び作品 25 から任意の 2 曲を選択し、第 1 日目に、本人による抽選で、演奏する 1 曲を決定する。

3 J. Haydn 又は M. Clementi 又は W. A. Mozart 又は L. v. Beethoven の、任意のソナター曲全楽章を選択し、第 1 日目に本人による抽選で、演奏する (1 つの、あるいは複数の) 楽章を決定する。

#### ※注意

- (1) いずれも暗譜演奏すること。
- (2) 繰り返しは自由。但し、ソナタ形式の提示部については繰り返ししないこと。
- (3) 演奏するすべての曲の作曲者、作品番号、楽章、調名を願書に明記すること。
- (4) 1 については 7 分以上 12 分程度までとする。
- (5) 1 については、変奏曲の抜粋は認めない。
- (6) 2 について、以下の曲は除く。  
作品 10 から 3, 6, 9 作品 25 から 1, 2, 7
- (7) 2 について、作品番号にかかわらず 2 曲を選択することも可。  
(例 : 10-1 10-2 あるいは 25-4 25-5 あるいは 10-1 25-4)
- (8) 時間の都合上カットすることがある。

弦楽専攻

下記の課題を演奏すること。

- ※注意 (1) 選択した曲目及び調名を願書に明記すること。  
 (2) 全ての課題は伴奏なしで暗譜演奏すること。(繰り返し及びダ・カーポはしない。)  
 (3) コントラバスについてのみ、楽器を持参できない場合は本学で用意するので、楽器を持参するか否かを願書に記入すること。  
 (4) 時間の都合上カットすることがある。

\*ヴァイオリン

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、その第1楽章と第2楽章(ただしLaloのスペイン交響曲においては第1楽章と第4楽章)を演奏すること。

M. Bruch: 協奏曲 第1番 ト短調 作品26

A. Dvořák: 協奏曲 イ短調 作品53

(Adagio ma non troppo から Finale の前までを第2楽章とする。)

E. Lalo: スペイン交響曲 ニ短調 作品21

F. Mendelssohn: 協奏曲 ホ短調 作品64

N. Paganini: 協奏曲 第1番 ニ長調 作品6

(オリジナル版により演奏すること。カデンツァはなし。)

C. Saint-Saëns: 協奏曲 第3番 ロ短調 作品61

J. Sibelius: 協奏曲 ニ短調 作品47

P. Tchaikovsky: 協奏曲 ニ長調 作品35

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Vieuxtemps: 協奏曲 第4番 ニ短調 作品31

H. Vieuxtemps: 協奏曲 第5番 イ短調 作品37

(カデンツァはなし。Adagio から Allegro con fuoco の前までを第2楽章とする。)

H. Wieniawsky: 協奏曲 第1番 嬰へ短調 作品14

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Wieniawsky: 協奏曲 第2番 ニ短調 作品22

(第2日) 1 C. Flesch: Scale System より No.5, 6, 7, 8, 9, 10 ただし No.6 ~ No.9 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6, 7, 8, 9, 10 は4分音符単位(16分音符4個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は No.5 はメトロノームで4分音符 = 80以上, No.6 ~ 10 は8分音符 = 60以上で演奏すること。

2 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

P. Rode: 24Caprices

J. Dont: Etüden und Capricen 作品35

N. Paganini: 24Caprices 作品1 (ただし、4小節以下の繰り返しはすること。)

\*ヴィオラ

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

Carl Stamitz:協奏曲 ニ長調 作品1 第1楽章及び第2楽章(版は自由とする。カデンツァを除く。)

J. Christian Bach:協奏曲 ハ短調 第2楽章及び第3楽章 (SALABERT版を使用すること。カデンツァを含む。)

A. Hoffmeister:協奏曲 ニ長調 第1楽章及び第2楽章(IMC版を使用すること。カデンツァを除く。)

C. M. v. Weber: Andante e Hungarian Rondo (IMC版を使用すること。)

M. Reger: Suite 作品131d No.1 第1楽章及び終楽章

G. Enesco: Concert piece

(第2日) 1 C. Flesch: Scale System より No.5, 6, 7, 8

ただし No.6, 7, 8 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6, 7, 8 は8分音符単位(16分音符2個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は任意である。

2 B. Campagnoli: 41 Caprices 作品22より 任意の1曲を選択し、演奏すること。(版は自由とする。)

第一次試験

\*チェロ

(第1日) 下記の中からいずれか1曲を選択し、その第1楽章又は< >内の課題を演奏すること。

A. Dvořák : 協奏曲 ロ短調 作品104

J. Haydn : 協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb.1

協奏曲 第2番 ニ長調 Hob. VIIb.2

※第1番, 第2番共にカデンツァは除く。

D. Kabalevsky : 協奏曲 第1番 ト短調 作品49

E. Lalo : 協奏曲 ニ短調<第1楽章より23小節目から117小節目まで及び211小節目から233小節目まで>

C. Saint-Saëns : 協奏曲 第1番 イ短調 作品33<第1楽章より冒頭から111小節目まで, 第3楽章より440小節目から480小節目まで及び534小節目から576小節目まで>

R. Schumann : 協奏曲 イ短調 作品129

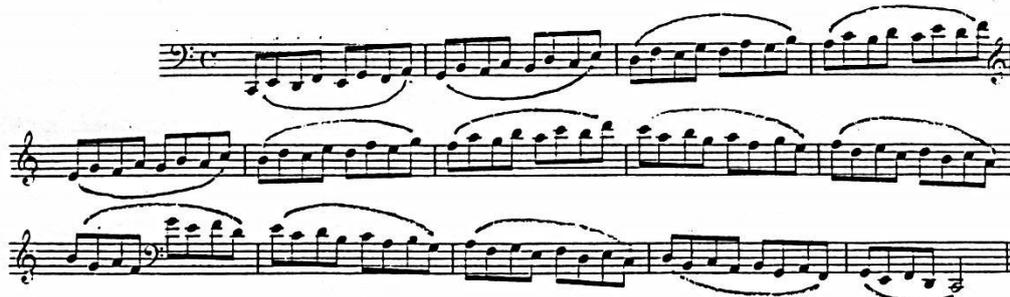
P. Tchaikovsky : ロココ風の主題による変奏曲 作品33<主題, 第1変奏曲, 第2変奏曲, 第3変奏曲, 第7変奏曲> (W. Fitzenhagenによる改作版を使用のこと。)

(第2日) 1 J. Loeb の Gammes et arpèges (Billaudot版)を参照のうえ、任意の調性により下記(a)から(f)までの課題を演奏すること。ただし全て同一の調性であること。

(a) 4オクターヴにわたる単音の音階 (スラーは1弓8音) = 100以上

(b) 4オクターヴにわたる単音分散3度の音階 (スラーは1弓8音) = 100以上

ハ長調の例



(c) 4オクターヴにわたるアルペジオ (スラーは1弓6音 = 60以上)

(d) 2オクターヴにわたる重音3度の音階 (スラーは自由 = 80以上)

(e) 2オクターヴにわたる重音6度の音階 (スラーは自由 = 80以上)

(f) 1オクターヴにわたる重音8度の音階 (スラーは自由 = 80以上)

(注) (d) (e) (f) の音階を始める音域は任意とする。また運指は全て自由とする。

2 下記の中からいずれか1曲を選択し演奏すること。ただし、試験当日の演奏時間はいずれも5分までとする。

J. Dotzaur : 113 Etüden 第3巻より第75番, 第76番, 第77番, 第80番, 第81番, 第82番, 第83番

J. Duport : Etudes (ただし, 第3番, 第4番, 第5番, 第19番は除く。)

S. Lee : Melodische Etüden 第2巻 作品31より第23番, 第27番, 第33番, 第34番, 第38番

※上記指定以外の全ての楽曲及び練習曲の版は自由とする。

第一次試験

\*コントラバス

(第1日) 任意ソナタの第1楽章及び第2楽章又は協奏曲の第1楽章を演奏すること。

(第2日) 1 下記 (a) ~ (d) までの音階及びアルペジオの課題を演奏すること。(速度は自由)

2 J. Hrabec : 86 Etudes 第1巻より第25番 Andante を演奏すること。

(a)

(b)

(c)

(d)

管・打楽専攻

以下の楽曲を演奏すること。

- ※注意 (1) 下記の第2日の楽曲は、いずれも暗譜演奏すること。(繰り返しはしない。)  
 (2) 伴奏者は、いずれも本学において準備するので、同伴しないこと。  
 (3) 時間の都合上カットすることがある。

\*フルート

- (第1日) E. Köhler : 12 Medium Difficult Exercises 作品33 第Ⅱ巻の中から当日指定する曲 (C. Fischer 版)  
 (第2日) W. A. Mozart : 協奏曲 第1番 ト長調 K. 313 (K6. 285C) 第1楽章 (カデンツァを除く。)

\*オーボエ

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes op.31 (Gerard Billaudot 版) より第1番, 第3番, 第5番, 第10番, 第12番, 第13番, 第16番, 第18番, 第22番, 第27番の中から当日指定する曲  
 (第2日) J. Haydn : 協奏曲 ハ長調 Hob. Vllg : C1 第1, 第2楽章 (Breitkopf 版)

\*クラリネット

- (第1日) C. Rose : 32 Etudes より第8番, 第18番, 第19番, 第21番, 第23番, 第24番, 第26番, 第29番, 第31番, 第32番の中から当日指定する曲  
 (第2日) Carl Maria von Weber : Concertino Es-Dur 作品26

\*ファゴット

- (第1日) J. Weissenborn : Fagott Studien 作品8 第2巻より第1番から第15番までの中から当日指定する曲 (繰り返しなし, 版の指定なし)  
 (第2日) G. P. Telemann : Sonata f-moll 第1楽章, 第4楽章 (繰り返しなし, 版の指定なし。)

\*サクソフォン

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes pour tous les saxophones (Alphonse Leduc 版) より第1番, 第5番, 第6番, 第8番, 第9番, 第12番, 第17番, 第18番, 第26番, 第27番の中から当日指定する2曲  
 (第2日) A. Grazounov : Concerto en mi bemol (Alphonse Leduc 版) 冒頭から練習番号第16番まで演奏すること。

\*ホルン

- (第1日) C. Kopprasch : Sixty Selected Studies (C. Fischer 版, 繰り返しなし) より第7番, 第12番, 第13番, 第15番, 第16番, 第19番, 第23番, 第25番, 第27番, 第28番の中から当日指定する曲  
 (第2日) W. A. Mozart : 協奏曲 第4番 変ホ長調 KV. 495 全楽章より当日指定 (ただし第3楽章は第99小節目まで, カデンツァ無し)

\*トランペット

- (第1日) 1 E. F. Goldman : Practical Studies for the Trumpet より第19番 Cadenzas の中から当日指定する曲 (C. Fischer 版)  
 2 OSKAR BOEHME : 24 MELODIC STUDIES in all tonalities Opus20 より1番~10番の中から当日指定する曲  
 なお, 曲を演奏する前に, それぞれの調の音階を最初はテヌートで, リピート後はスタッカートで演奏すること。  
 (第2日) G. Alary : Morceau de Concours

第一次試験

**\*トロンボーン**

(第1日) C. Kopprasch : Sixty Selected Studies for Trombone (C. Fischer 版) Book I より第8番, 第10番, 第13番, 第15番, 第17番, 第19番, 第21番, 第22番, 第25番, 第31番の中から当日指定する曲

(第2日) F. David : Konzertino 変ホ長調 Op.4 第1楽章 (Zimmermann 版を使用すること。カデンツァを含む。)

**\*バス・トロンボーン**

(第1日) O. Blume : 36 Studies for Trombone with F Attachment (C. Fischer 版) より 第2番, 第3番, 第4番, 第5番, 第6番, 第7番, 第8番, 第11番, 第12番, 第23番の中から当日指定する曲

(第2日) F. David : Konzertino 変ロ長調 第1楽章 (Zimmermann 版を使用すること。カデンツァを含む。)

**\*チューバ**

(第1日) 1 C. Kopprasch : 60 Selected Studies より第5番, 第7番, 第8番, 第9番, 第10番, 第11番, 第12番, 第13番, 第14番, 第15番の中から当日指定する曲

2 M. Bordogni : 43 Bel Canto Studies より第2番~第10番の中から当日指定する曲

(第2日) W. S. Hartley : Suite for Unaccompanied Tube (Elkan-Vogel 版) より第1楽章, 第2楽章, 第4楽章

**\*打楽器**

打楽器 (A), 打楽器 (B) のいずれかを選択して演奏すること。(A, B いずれを選択したか, また A については選択した曲名を願書に明記すること。小太鼓については立奏, 座奏いずれも可。両日とも小太鼓およびスタンドは持参すること。)

**打楽器 (A)**

(第1日) (ア) Morris Goldenberg : Modern school for snare drum より 47 ページ < Roll exercise in 4/4 II >, 48 ~ 49 ページ < Etude in 6/8 > の中から当日指定する曲

(イ) Anthony J. Cirone: Portraits in Rhythm: 50 Studies for Snare Drum (Alfred Music Publishing) より 2番~7番, 10番の中から当日指定する曲

(ウ) 下記の楽曲の中から一曲を選択し, 本学で用意するマリンバで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。

J. S. Bach : ソナタ 第1番 ト短調 BWV1001

J. S. Bach : パルティータ 第1番 ロ短調 BWV1002

J. S. Bach : ソナタ 第2番 イ短調 BWV1003

J. S. Bach : パルティータ 第2番 ニ短調 BWV1004 より Ciaccona

J. S. Bach : ソナタ 第3番 ハ長調 BWV1005

J. S. Bach : パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006

(第2日) 第1日目の (ウ) に同じ

**打楽器 (B)**

(第1日) (ア) Morris Goldenberg : Modern school for snare drum より 47 ページ < Roll exercise in 4/4 II >, 48 ~ 49 ページ < Etude in 6/8 > の中から当日指定する曲

(イ) Anthony J. Cirone: Portraits in Rhythm: 50 Studies for Snare Drum (Alfred Music Publishing) より 2番~7番, 10番の中から当日指定する曲

(ウ) Siegfried Fink : Trommel-Suite より Intrada Toccata Mista Marcia (暗譜で演奏すること。)

(エ) J. S. Bach : パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006 より Bourée Gigue (本学で用意するマリンバで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。)

(第2日) 第1日目の (ウ) に同じ

## 第一次試験

### 声乐専攻

- (第1日) 自由曲：歌曲あるいはアリア1曲（宗教曲も含む）。演奏時間は4分程度とする。ただし、課題曲以外のものを選ぶこと。
- (第2日) 課題曲：下記の15曲の中から各自4曲を選ぶこと。その中から当日2曲を指定する。
- (1) A. Scarlatti : Toglietemi la vita ancor
  - (2) F. Gasparini : Caro laccio
  - (3) F. Gasparini : Lasciar d'amarti
  - (4) F. Durante : Vergin, tutto amor
  - (5) D. Scarlatti : Qual farfalletta amante
  - (6) G. B. Pergolesi : Se tu m'ami
  - (7) W. A. Mozart : Ridente la calma
  - (8) V. Bellini : Malinconia Ninfa gentile
  - (9) V. Bellini : Ma rendi pur contento
  - (10) G. Verdi : In solitaria stanza
  - (11) F. Schubert : An die Musik
  - (12) F. Schubert : Geheimes
  - (13) R. Schumann : Die Lotosblume
  - (14) 弘田龍太郎 : 浜千鳥
  - (15) 中田喜直 : 風の子供

- ※注意
- (1) 試験の際の演奏は暗譜とする。
  - (2) 曲はすべて原語で演奏することが原則であるが、慣例として認められている訳語は可。
  - (3) 自由曲で、オペラ及びオラトリオ等のアリアは原調によるものとするが、慣例として移調されて歌われるものはその限りではない。
  - (4) 選択した曲名、作曲者名及び調性を願書に明記すること。（提出後の調性の変更は認めない。）
  - (5) 自由曲及び課題曲については、時間の都合上、カットすることがある。
  - (6) 伴奏者は、両日共本学において準備するので、同伴しないこと。

※「英語」の試験問題については、著作権法上の規定により掲載しておりません。

平成27年度（2015年度）

京都市立芸術大学音楽学部入学試験問題

音楽学 小論文

以下の2問から1問を選んで解答しなさい。

解答用紙に選択した問題の番号を記入してから書くこと。

- 1 音楽をライブ（生 [なま]）で聴くことと、録音されたものを聴くことでは、何がどのように違いますか？ できるだけ具体的な例をあげて論じなさい。
- 2 音楽とイノベーション（技術革新）の関係について具体例を挙げながら論ぜよ。

平成 27 年度  
京都市立芸術大学音楽学部入学試験

音楽通論 問題用紙

I. 譜例 1 を見て、以下の問いに答えなさい。(計 31 点)

- (1) ①～④ で示された部分の調をドイツ語で書きなさい。(3 点×4)
- (2) ①の調の属音を和声的短音階の第六音とする調の主要三和音の基本形を、調号を用いなくて、解答用紙に示された譜表に書きなさい。(3 点)
- (3) ②の調のⅥ度の和音の根音を第三音とする短三和音の第一転回形を、調号を用いなくて、解答用紙に示された譜表に書きなさい。(3 点)
- (4) ③の調の導音をⅡ度の和音の第五音とする調の旋律的短音階上行形と下行形を、調号を用いなくて、解答用紙に示された譜表に書きなさい。(3 点)
- (5) ④の調の平行調の導音を属七の和音の第七音とする短調の自然的短音階を、調号を用いなくて、解答用紙に示された譜表に書きなさい。(3 点)
- (6) ㉗～㉘の和音の中で、1 つだけ和音の種類が違うものがあります。それはどれか、㉗～㉘の記号で答えなさい。(2 点)
- (7) ㉗～㉘の和音の中で、1 つだけ第一転回形があります、それはどれか、㉗～㉘の記号で答え、その和音の基本形を、調号を用いなくて、解答用紙に示された譜表に書きなさい。(2 点+3 点)

II. 譜例 2 を見て、以下の問いに答えなさい。(計 69 点)

- (1) ①～⑩の楽語の意味を書きなさい。(2 点×10)
- (2) ②⑥⑦⑧の完全なつづりを書きなさい。(2 点×4)
- (3) ④～⑨の音程の転回音程を例にならって書きなさい。ただし複音程は単音程になおすこと。(2 点×10)  
(例：長 3 度)
- (4) ⑤～⑨の和音と同じ種類の和音の基本形を、解答用紙に示された音を第五音として書きなさい。(2 点×6)
- (5) ⑤の和音を含む調を、ドイツ語ですべて書きなさい。ただし、短調は和声的短音階で考えること。(3 点)
- (6) 最後の 2 小節間を短 2 度上に移調して、解答用紙に示された譜表に、調号を用いなくて書きなさい。(6 点)

譜例 1

The musical score for Example 1 is presented in five systems, each containing three staves (treble, alto, and bass clefs). The key signature is three flats (B-flat, E-flat, A-flat) and the time signature is 4/4. The score includes various musical notations and performance markings:

- System 1:** Features a trill in the treble staff. Circled numbers 1 and 2 are placed below the bass staff.
- System 2:** Includes a trill in the treble staff. Circled numbers 3 and 7 are placed below the bass staff.
- System 3:** Contains dynamic markings *fp* in the treble and bass staves. Circled numbers 1 and 5 are placed below the bass staff.
- System 4:** Features dynamic markings *sf* in the treble and bass staves. A circled number 6 is placed above the treble staff.
- System 5:** Includes dynamic markings *decresc.* and *p* in the treble and bass staves. A circled number 4 is placed below the bass staff.

譜例 2

① dolce, armonioso

② legatiss.

③ la melodia accentato assai

④ quasi improvisato

⑤ affrettando

⑥ cresc.

⑦ *rfz*

⑧ riten.

⑨ a tempo

⑩ agitato

The score is written for piano in G major (one sharp) and 3/4 time. It consists of five systems of two staves each. The first system includes annotations 1, 2, and 3. The second system includes annotation 4. The third system includes annotations 5 and 6. The fourth system includes annotation 7. The fifth system includes annotations 8, 9, and 10. The piece concludes with a fermata over the final chord.



第二次試験

(3) ㉠                      ㉡                      ㉢                      ㉣                      ㉤

㉥                      ㉦                      ㉧                      ㉨                      ㉩

(4) ㉪                      ㉫                      ㉬                      ㉭                      ㉮                      ㉯

(5)



(6)

MEMO

平成27年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

旋律聴音

The musical score is written in G major (one sharp) and 6/8 time. It begins with a tempo marking of ♩ = 110. The melody consists of four staves of music:

- Staff 1: Measures 1-3. Measure 1 starts with a quarter rest, followed by a quarter note G4, an eighth note A4, and a quarter note B4. Measure 2 contains a quarter note C5, a quarter note B4, and a quarter note A4. Measure 3 contains a quarter note G4, a quarter note F4, and a quarter note E4.
- Staff 2: Measures 4-6. Measure 4 contains a quarter note D4, a quarter note C4, and a quarter note B3. Measure 5 contains a quarter note A3, a quarter note G3, and a quarter note F3. Measure 6 contains a quarter note E3, a quarter note D3, and a quarter note C3. A triplet of eighth notes (D4, E4, F4) is marked with a bracket and the number 3.
- Staff 3: Measures 7-9. Measure 7 contains a quarter note B3, a quarter note A3, and a quarter note G3. Measure 8 contains a quarter note F3, a quarter note E3, and a quarter note D3. Measure 9 contains a quarter note C3, a quarter note B2, and a quarter note A2. A triplet of eighth notes (B3, A3, G3) is marked with a bracket and the number 3.
- Staff 4: Measures 10-12. Measure 10 contains a quarter note G2, a quarter note F2, and a quarter note E2. Measure 11 contains a quarter note D2, a quarter note C2, and a quarter note B1. Measure 12 contains a quarter note A1, a quarter note G1, and a quarter note F1.

平成27年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

和声聴音[作曲、指揮、ピアノ]

$\text{♩} = 40$

5

Detailed description: This block contains two systems of musical notation for piano. The first system consists of four measures. The key signature has three flats (B-flat, E-flat, A-flat), and the time signature is common time. The tempo is marked as quarter note = 40. The notation is in grand staff (treble and bass clefs). The second system consists of four measures, starting with a measure number '5' above the first measure. The notation continues in the same grand staff.

平成27年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

和声聴音[弦楽、管・打、声楽、音楽学]

$\text{♩} = 40$

5

Detailed description: This block contains two systems of musical notation for piano. The first system consists of four measures. The key signature has three flats (B-flat, E-flat, A-flat), and the time signature is common time. The tempo is marked as quarter note = 40. The notation is in grand staff (treble and bass clefs). The second system consists of four measures, starting with a measure number '5' above the first measure. The notation continues in the same grand staff.

平成27年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

新曲視唱

$\text{♩} = 70$   
*mp* ben cantabile

*mf* *f*

*mp*

平成 27 年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

コールユーブンゲン視唱



第二次試験

平成27年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験  
ピアノ新曲視奏

Moderato

*p cresc.*

*mp* *mf cresc.*

*f* *subito p poco a poco*

Ped.

第二次試験

16

*cresc.*

*Ped.*

20

*meno mosso*

*a piacere*

*L.H.* *L.R.H.* *L.H.* *L.R.H.*

*Ped.*

*sfz*

## 各専攻副科ピアノ課題曲

副科ピアノの課題曲については、次のとおりとします。

- 1 音階：次の調性の中から同一調子記号による長調と短調を当日指定する。

速度は♩ = 76 M. M. 以上。

ハ長調 ト長調 ニ長調 ヘ長調 変ロ長調 変ホ長調

イ短調 ホ短調 ロ短調 ニ短調 ト短調 ハ短調

(注) ハノン第39番による。長調の音階は繰り返し演奏し、終止形をつけて終わる。短調は、和声的及び旋律的短音階の両方を一度ずつ続けて演奏し、終止形をつけて終わる。

- 2 (A) J. S. Bach：平均律ピアノ曲集 第2巻より 前奏曲とフーガ 第12番 ヘ短調 BWV881

(B) J. S. Bach：2声のインヴェンション BWV772～786 より1曲又はシンフォニア（3声のインヴェンション）BWV787～801より1曲を自由選択

ただし、インヴェンション第10番ト長調、シンフォニア第5番変ホ長調、シンフォニア第6番ホ長調を除く。

(C) J. S. Bach：小プレリュード（小前奏曲）ハ長調 BWV924（ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのための小曲集より）

(注) ※作曲及び指揮専攻志願者は、上記1は必ず、2は(A)(B)の中から1つを選択し、演奏すること。

※弦楽、管・打楽、声楽及び音楽学専攻志願者は、上記1は必ず、2は(A)(B)(C)の中から1つを選択し、演奏すること。

※全て暗譜で演奏すること。(繰り返しはしない。)

2015 年 3 月

京都市立芸術大学 事務局 入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

Tel 075-334-2238

Fax 075-334-2281

<http://www.kcua.ac.jp>